

平成21年度 教育行政評価シート（自己評価）NO.10

事務事業名 (予算事業名)	鹿嶋の民話及び市民音頭普及事業 (文化事業)	作成日	H22.8.1
		担当部名	市民協働部
		担当課名	生涯学習課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	3 郷土理解教育と国際理解教育の推進
体系項目	(1) 郷土理解教育の推進
個別施策	② 伝統文化の保護と継承

2 事業概要 (Plan)

戦略目標	<p>事業を実施する目標を記入してください。</p> <p>幼児期から郷土の民話の普及が課題ですが、平成20年度に体系的にまとめた民話集が完成し、幼児期から大人までの幅広い層へ普及活動を行っています。各幼稚園や保育園、小学校へ配布した民話集を活用して、ボランティア団体である鹿嶋語り部の会の協力のもと、普及活動に努め郷土愛の育成を図っていきます。</p> <p>鹿嶋市民音頭は、舞踊連盟の協力のもと各種イベント(体育祭、夏まつり等)において市民全員が踊れる音頭として普及活動に努めます。</p> <p>市内の郷土かるたは、4種類のかかるたがあり、文化財愛護かるたを筆頭に3地区の郷土かるたを普及するため、各かるた大会等を支援し郷土愛の育成を図ります。</p>
------	---

重要成功要因	<p>戦略目標を達成するための要因を記入してください。</p> <p>①民話の普及活動の母体となる鹿嶋語り部の会の協力・支援と各幼稚園、保育園及び小学校等への普及活動</p> <p>②市民音頭振付の創作者である舞踊連盟の協力・支援と市民音頭普及のため各種イベント出演・普及活動</p> <p>③各種かるたの紹介とかるた大会の支援</p>
--------	--

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。		
	対象	市民	規模
			65,911人

予算科目コード	会計	01 款	10 項	05 目	01 事業名	鹿嶋の民話及び市民音頭普及事業(文化事業)						
投入コスト	全体計画					20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
						(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	
	事業経費	鹿嶋の民話普及事業					240	120	60	60	60	60
		鹿嶋の民話増刷					1,155	0	0	0	0	0
		市民音頭普及事業					60	45	38	38	38	38
		郷土かるた大会支援					0	0	0	0	0	0
		合計【1】					1,455	165	98	98	98	98
	財源内訳	国県支出金										
		地方債										
		その他(参加者負担金)										
一般財源					1,455	165	98	98	98	98		
従事職員数	正規職員					0.12	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	
					その他職員							

根拠法令	
------	--

事業の性質	法定受託事務		自治事務(義務)	○	自治事務(任意)	○	市民サービス建設事業	管理経費その他
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定		平成 年度から	平成 年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	<p>事業を取り巻く環境について記入してください。</p> <p>新しいコミュニティづくりの起爆剤として伝統芸能の復活等、地域のきづなづくりが進められています。学校においても道徳教育や伝統芸能・伝統楽器の取り組みも行われています。</p>
--------------------------	---

3 実績及び事業評価 (Check)

視点	評価項目	評価指標	評価指標根拠	判定
I 予算執行の視点 30%	【①コスト削減】 事業運営上、コスト削減の余地はあるか？ (民間委託、指定管理、他事業との統廃合、一般入札の導入、IT化、長期継続契約等)	A：コスト削減率10%以上 B：コスト削減率10%未満 C：コスト削減率 0%	自主的な市民音頭の普及活動等、各団体の積極的な協力が得られました。民話普及活動1回当たりの経費は減少しました。	A
	【②費用対効果】 予算額に対し、事業以外の付加価値はあるか？(他市における同様の事業経費との比較、担当者一人あたりの経費など)	A：付加価値が予算額10%以上 B：付加価値が予算額10%未満 C：付加価値なし	民話普及活動は32回(昨年25回)以上にボランティアとして14回、延べ46回の普及活動を行い、2,827人が聴講しました。市民音頭普及活動は昨年同様3回行いました。	A
	【③計画性】 計画的な事業実施が行われているか？(計画的な予算執行、事業実施計画などがあるか)	A：対計画実施率90%以上 B：対計画実施率80%~90%未満 C：対計画実施率80%未満	民話・市民音頭の普及は、昨年度実績と同程度を予定し事業を実施しました。さらにボランティアによる普及活動が見られました。	A
II 対象者の視点 30%	【④顧客満足度】 事業実施後、顧客ニーズを把握し、事業を実施しているか？(顧客満足度の結果、顧客満足度調査の実施頻度など)	A：顧客満足度80%以上 B：顧客満足度60%から80% C：顧客満足度60%未満	普及活動実施報告書から参加した方々の反応が見え、子どもたちの楽しさが感じられました。	B
	【⑤コスト】 顧客一人あたりにかけるコストはどのくらいか？(顧客一人あたりが負担するコストはどのくらいか？→評価指標は逆転)	A：対昨年度比、10%以上高い B：対昨年度比、0%~10%未満 C：対昨年度比、安い	民話普及は1回に対する経費は減少しました。25回→32回、一人あたりのコストは50%減となりました。	A
	【⑥時間】 顧客一人あたりにかける時間はどのくらいか？(顧客一人あたりが要する時間はどのくらいか？→評価指標は逆転)	A：対昨年度比削減率、10%以上 B：対昨年度比削減率、0%~10%未満 C：対昨年度比、増加	民話の語りの時間、市民音頭の時間の変更はありませんが、民話の数や音頭の実演回数により参加者の時間に変化がありました。	B
III 事業実施過程の視点 30%	【⑦ニーズの把握】 事業を導入する際、ニーズの把握を行ったか？(市民参画の割合など)	A：市民参画率20%以上 B：市民参画率 0%~20%未満 C：市民参画なし	民話普及は、学校等の要望により派遣を行いました。市民音頭は3回実施し、他団体の要望によりボランティア活動を行いました。	A
	【⑧時間】 事業実施に伴う時間はどのくらいか？(打ち合わせ(会議)時間の短縮率(質の向上)、顧客の平均対応時間、情報の共有化など)	A：対昨年度比削減率、10%以上 B：対昨年度比削減率、0%~10%未満 C：対策年度比、増加	前年度と変化はありません。	B
	【⑨事業実施後の管理】 事業実施後の管理体制は確立しているか？(事業委託、民営化、市民参画団体への委譲後等の事業実施に対する管理体制)	A：管理体制確立、課題解決率10% B：管理体制確立、課題解決率0% C：管理体制確立せず	実績報告書をもとに内容を確認し、事後の活動に活かしました。	B
IV 職員育成の視点 10%	【⑩業務改善】 業務の改善を行っているか？(業務の改善に関する提案件数の達成率、管理費(義務的経費は除く)のIT費用の割合など)	A：業務改善率、10%以上 B：業務改善率、0%~10%未満 C：業務改善なし	民話の普及に関して、これまで直接依頼は実績報告書として提出を受けていませんが、今年度から全体の普及活動として報告を受けました。	B
	【⑪研修】 事業を効果的に行うために、研修を行っているか？(研修時間、組織内の研修受講割合など)	A：対昨年度比研修時間、10%増 B：対昨年度比研修時間、5%増 C：対昨年度比研修時間、増減なし	前年度と変化はありません。	C
	【⑫技能向上】 資格の取得など、実務的な技能が向上したか。(資格取得、知識の共有化や結合化件数など)	A：対昨年度比、3件増 B：対昨年度比、1件増 C：対昨年度比、増加なし	前年度と変化はありません。	C

4 自己評価結果 (Action)

総合評価	Aを10点、Bを7点、Cを5点とし、それぞれの項目の結果の合計に視点毎の割合をかけ(最高30点)、上記IからIVの視点による事業評価に基づく総合評価を行う。	点数	25.1	A：合計点が24点以上 B：合計点が21点~23点 C：合計点が20点以下	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善策	現状	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 民話普及活動は32回(昨年25回)以上にボランティアとして14回、延べ46回の普及活動を行い、2,827人が聴講しました。市民音頭普及活動は昨年同様、桜まつり、夏まつり、かしまつりの3回行いました。民話普及は、各幼稚園・保育園や小学校へ配布した民話集を活用して、鹿嶋語り部の会の協力のもと普及活動に努めました。また、鹿嶋市民音頭は、舞踊連盟の協力のもと各種イベント(体育祭、夏まつり等)において市民全員が踊れる音頭として普及活動に努めました。さらに、市内の郷土かるたは、文化財愛護かるたを筆頭に3地区の郷土かるたを普及するため、各かるた大会等を支援し郷土愛の育成に努めました。				
	課題	現状認識を踏まえた課題について記入してください。 「鹿嶋の民話」が完成し、普及活動を行っていますが、鹿嶋語り部の会が独自に収集した話の民話化が進んでいます。また、創作民話の制作にも力を入れており、広く市民の皆さんに普及するためにもこれらの資料を整理して追加民話集として編集、発刊するか検討が必要です。				
	改善策	課題に対する改善策を、期限や具体的な数値などを記入してください。 追加民話集については、鹿嶋語り部の会と連携し検討していきます。				

平成21年度 教育行政評価シート（自己評価）NO.11

事務事業名 (予算事業名)	小・中学校英語活動 (英語指導事業経費)	作成日	H22.7.29
		担当部名	教育委員会
		担当課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
重点目標	3 郷土理解教育と国際理解教育の推進
体系項目	(2) 国際理解教育の推進
個別施策	① 小中学校での英語教育の充実

2 事業概要 (Plan)

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。 英語を母国語とする英語指導助手を各小中学校に配置し、日常生活で自ら進んで英語表現ができることを目標として、小学校1年生及び2年生は英語に親しむことを重点に、小学校3年生及び4年生は、英語表現に慣れることを重点に、小学校5年生及び6年生は、英語による基本的なコミュニケーション能力を身につけることを重点に、中学校では、小学校から慣れ親しんだ会話中心の英語教育から、ライティング力を含む総合的な英語力の向上に努めます。
------	--

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。 ①英語指導助手と児童・生徒が英語を使ってコミュニケーションしようとする必然性の提供 ②英語指導助手との交流による児童・生徒の英会話能力の積極的引き出し ③英語指導助手との交流による異文化への関心と国際理解の深まり ④学校教職員に対する英語研修や効果的な授業実践に関する支援
--------	---

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。 対象 小学生及び中学生 規模 5,640人
--------	---

予算科目コード		会計	01 款	10 項	01 目	04 事業名	英語指導事業経費				
		全体計画		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度		
				(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)		
投入コスト	事業経費	委託料		114,741	106,349	101,528	101,528	101,528	101,528		
		需用費		2,415	2,238	1,890	1,890	1,890	1,890		
		合計【1】		117,156	108,587	103,418	103,418	103,418	103,418		
		財源内訳	国県支出金								
			地方債								
		その他									
		一般財源		117,156	108,587	103,418	103,418	103,418	103,418		103,418
従事職員数	正規職員			0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2		0.2
	その他職員										

根拠法令	
------	--

事業の性質	法定受託事務		自治事務(義務)	○	自治事務(任意)		市民サービス建設事業	○	管理経費その他
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定		平成 年度から		平成 年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。 小学校学習指導要領には「指導計画の作成や授業の全体的なマネジメントについては、学級担任や外国語活動を専門に担当する教員が中心となって、外国語活動を進めることが大切であるが、授業における外国語を用いた具体的な活動の場面では、ネイティブ・スピーカーや外国語が堪能な人々を起用すべきである。」と明記しており、今では多くの自治体で英語指導助手による英語教育を取り入れています。
--------------------------	--

3 実績及び事業評価 (Check)

視点	評価項目	評価指標	評価指標根拠	判定
I 予算 執行 の 視点 30 %	【①コスト削減】 事業運営上、コスト削減の余地はあるか？ (民間委託、指定管理、他事業との統廃合、 一般入札の導入、IT化、長期継続契約等)	A：コスト削減率10%以上 B：コスト削減率10%未満 C：コスト削減率 0%	委託内容等の細部を精査し、コ スト削減を行いました。	B
	【②費用対効果】 予算額に対し、事業以外の付加価値はある か？	A：付加価値が予算額10%以上 B：付加価値が予算額10%未満 C：付加価値なし	教育効果という面からは、鹿嶋 市の特色ある英語教育に刺激を 受ける児童生徒が増加していま す。	A
	【③計画性】 計画的な事業実施が行われているか？(計画 的な予算執行、事業実施計画などがあるか)	A：対計画実施率90%以上 B：対計画実施率80%~90%未満 C：対計画実施率80%未満	学校現場・教育委員会・受託者 が集まり、教育効果の高い事業 計画を立て推進しています。	A
II 対象 者の 視点 30 %	【④顧客満足度】 事業実施後、顧客ニーズを把握し、事業を 実施しているか？(顧客満足度の結果、顧客満 足度調査の実施頻度など)	A：顧客満足度80%以上 B：顧客満足度60%から80% C：顧客満足度60%未満	児童生徒アンケートより、英語 指導助手による英語教育の手法 は好評を得ています。	A
	【⑤コスト】 顧客一人あたりにかけるコストはどのくらい か？(顧客一人あたりが負担するコストはど のくらいか？→評価指標は逆転)	A：対昨年度比、10%以上高い B：対昨年度比、0%~10%未満 C：対昨年度比、安い	委託内容等の細部の精査によ り、児童生徒1人あたりのコス トは、前年度比7.3%の減とな りました。。	B
	【⑥時間】 顧客一人あたりにかける時間はどのくらい か？(顧客一人あたりが要する時間はどのく らいか？→評価指標は逆転)	A：対昨年度比増加率、10%以上 B：対昨年度比増加率、0%~10%未 満 C：対昨年度比、削減	英語指導助手による授業時間は 前年度と変わりません。	B
III 事業 実 施 過 程 の 視 点 30 %	【⑦ニーズの把握】 事業を導入する際、ニーズの把握を行った か？(市民参画の割合など)	A：市民参画率20%以上 B：市民参画率 0%~20%未満 C：市民参画なし	教職員・PTA等学校関係者か ら、本市の英語教育を評価する 意見が出されています。	B
	【⑧時間】 事業実施に伴う時間はどのくらいか？(打ち 合わせ(会議)時間の短縮率(質の向上)、 情報の共有化など)	A：対昨年度比削減率、10%以上 B：対昨年度比削減率、0%~10%未 満 C：対策年度比、増加	研修会において、各校での英語活 動の中で発生した反省点や改善す べき事例等を話し合い、内容充実 と情報共有に努めています。	A
	【⑨事業実施後の管理】 事業実施後の管理体制は確立しているか？ (事業委託、民営化、市民参画団体への委譲 後等の事業実施に対する管理体制)	A：管理体制確立、課題解決率10% B：管理体制確立、課題解決率0% C：管理体制確立せず	学校・教育委員会・受託者によ る管理体制の確立に努めていま す。	B
IV 職 員 育 成 の 視 点 10 %	【⑩業務改善】 業務の改善を行っているか？(業務の改善に 関する提案件数の達成率、管理費(義務的経 費は除く)のIT費用の割合など)	A：業務改善率、10%以上 B：業務改善率、0%~10%未満 C：業務改善なし	学校や教育委員会からの要望に対 し、受託会社はほぼ全ての内容を改 善しています。今後もより教育効果 の高い授業内容の構築に努めます。	B
	【⑪研修】 事業を効果的に行うために、研修を行って いるか？(研修時間、研修内容の深化、組織内 の研修受講割合など)	A：対昨年度比研修時間、10%増 B：対昨年度比研修時間、5%増 C：対昨年度比研修時間、増減なし	英語教育の充実のため、教職員 を対象に市独自の研修会等を開 催しています。	A
	【⑫技能向上】 資格の取得など、実務的な技能が向上した か。(資格取得、知識の共有化や結合化件数 など)	A：対昨年度比、増 B：対昨年度比、微増 C：対昨年度比、増加なし	研修会等の開催を通じ、教員の 英語指導力向上に努めていま す。	A

4 自己評価結果 (Action)

総合 評価	Aを10点、Bを7点、Cを5点とし、そ れぞれの項目の結果の合計に視点毎の割合を かけ(最高30点)、上記IからIVの視点に よる事業評価に基づく総合評価を行う。	点数	25.2	A：合計点が24点以上 B：合計点が21点~23点 C：合計点が20点以下	総合評価結果	A
本 評価 に 基 づ く 事 業 の 改 善 策	現状	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 英語を社内公用語とする日本企業が増加している現在、英語教育は国際理解教育の推進からも、今 後ますます重要となっていきます。その中で、英語を母国語とする外国人英語指導助手による英語指 導は、小学生から英語や身近にいる外国人と多く触れ、慣れることで将来に渡り、積極的に英語によ りコミュニケーションできる能力を養う重要な機会です。 教育効果という面からは、鹿嶋市の特色ある英語教育に刺激を受ける児童生徒が増加しています。				
	課題	現状認識を踏まえた課題について記入してください。 小学校で培った英語力とコミュニケーション力を、中学校英語教育においてどう伸ばしていくかが 課題です。				
	改善策	課題に対する改善策を、期限や具体的な数値などを記入してください。 教員と英語指導助手による、より教育効果の高い授業を行うための研究を進めます。 教育研修会や学校訪問研修会等を始めとして、教員の研修機会を多く設定します。 校内での英語教育研修体制の確立を支援していきます。				